

建築計画 (Architectural Planning III)

担当教員名	坂戸 省三、寺岡 宏治、徳岡 浩二	
学科・専攻、科目詳細	建築学科 4年 前期 1単位 演習	
学科のカリキュラム表	専門科目 必修科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	D-3(30%) E-1(25%) H-1(45%)
	JABEE基準1(1)	(d)(f)(g)
科目的概要	建築は人間の生活を支える器であり、生活を左右するが、建築計画学は生活を豊かにする力を科学的に認識し、理論化する学問である。本講義はそうした視点から計画課題の明確化、設計の進め方について講義する。また建築設計の第一線で活躍する建築家である二人の非常勤講師は建築設計業務の実際について講義する。	
テキスト(参考文献)	柳澤忠監修:「設計力を育てる建築計画100選」、共立出版	
履修上の注意	建築には、例えば、様々な人々の生活パターンに対応する多様性、機能と空間構成の関係、機能内容の時代的変化、等々の多くの側面がある。建築の計画・設計について考えるときは諸側面を総合的に捉えるように心がけること。	
科目的達成目標	<p>建築物の寿命はどのように捉えられるか理解し、建築空間の長寿命化のための計画手法を理解している。</p> <p>計画・設計プロセスの諸段階を知り、設計を進めていく上で必要な基本的な平面型の知識、全体計画のまとめ方等々を理解している。</p> <p>地域の問題の住民による自主的解決に関連して建築協定の意義を理解している。</p> <p>人間性豊かな住空間を創造するため、人間学的視点の必要性や、高齢者施設の設立目標などを理解している。</p>	
自己学習	建築学の書籍のみではなく、人間の多様な行動の背後にある基本的な構造に関する心理学や進化生物学等の本や、歴史、文化に関する本を読み、建築を広い視野から捉えられるようにする。	
目標達成度(成績) の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	中間のレポート35%、期末試験65%。合計で60点以上を合格とする。	
連絡先	sakato@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週 授業の進め方	授業の進め方および建築計画学を勉強する上でのポイントの説明。
第2週 フレキシビリティとエキスパンシビリティ	建築空間に対する利用者の要求は年月とともに変化してゆく。それに対応しうる計画手法を解説。
第3週 建築寿命のとらえかた	建築物の寿命といつても多様な捉え方がある。どのような寿命の概念があるのかを概説する。
第4週 建築へのアプローチ01（寺岡講師）	街の見方、都市との接点。路上観察。
第5週 建築を志すということ（徳岡講師）	建築の楽しさと厳しさ、社会的責務について。
第6週 中廊下の発生と意味および連結の手法と分割の手法について	中廊下型を例に、建築の平面型の事例と特徴を説明。後半はブロックプランをまとめる手法の解説。
第7週 計画原論 人間性と空間について	人間が無意識に創り出し、かつ必要としている空間とはどのようなものか、心理学的、人間学的視点から解説
第8週 計画段階と設計段階	建築設計に先立って企画・計画段階がある。この段階と設計段階を比較し、各々の内容を説明する。
第9週 建築協定の意義	住民による積極的なまちづくりや、地域の問題の住民間の自主的解決といったことに関連する建築協定について解説。
第10週 建築へのアプローチ02（寺岡講師）	建築との出会い、建築の見方。
第11週 集まって学ぶということ（徳岡講師）	生涯学習施設の計画と実例について。
第12週 福祉施設	高齢者福祉施設について。グループホーム、小規模多機能福祉拠点について。
第13週 複合建築	基本事項、建築計画、実例。複合施設の問題点について。
第14週 低層集合住宅の計画	集住のなわばり学について。
第15週 補足授業	前期の授業の補足、復習、質問等。
期末試験	